

派生開発プロジェクトにおける 影響調査ツリー導入の検討

日本電気株式会社

富士暁之

a-fuji@cb.jp.nec.com

開発における問題点

派生開発プロジェクトでは、デグレードの発生を防ぐために影響調査が重要となる。私が所属する派生開発プロジェクトでは、設計経験豊富なメンバが各自のやり方で影響調査を実施しているため、長期的なプロジェクトの品質を確保するために設計経験が少ないメンバでも同様の影響調査を可能とする手法の導入が必要である。

手法・ツールの適用による解決

設計経験豊富なメンバの影響調査観点を体系的にツリー状に整理した「影響調査ツリー」の導入により、設計経験の少ないメンバでも設計経験豊富なメンバと同様の影響調査を可能とするよう試みた。

問題概要

派生開発では、既に運用環境で動作しているソースコードを改修する必要あることから、**デグレードを発生させないことが重要**である。

デグレードを発生させないためには設計工程において既存機能への影響を明確に把握する**影響調査が重要**である。

私の所属する派生開発プロジェクトでは、影響調査は設計経験豊富なメンバしか実施できないことから、**設計経験の少ないメンバでも同様の影響調査を可能とする手法の導入が必要**となる。

問題解決へのアプローチ

＜問題解決へのアプローチ＞

- ①必要十分な**調査観点を洗い出す**ことが重要である
- ②暗黙知を**形式知化**することが重要である
- ③類似観点への**気づきを促す**必要がある

影響調査ツリー導入による解決を選択

＜影響調査ツリーの作成方法＞

「過去3年間の運用環境で発生した不具合における当時漏れていた影響調査観点」と、「直近の派生開発の設計工程にて設計経験豊富なメンバが実施した影響調査の観点」をツリー状に整理して作成

影響調査ツリー(抜粋)



導入効果

設計経験の少ないメンバで効果の検証を実施

- [事前] 影響調査ツリーを使わない
 - [事後] 影響調査ツリーを使用
- 事前と事後にて、洗い出した影響調査観点を比較

影響調査ツリーの導入により、設計経験の少ないメンバでも体系的に調査観点を抽出することにより、より効果的で**暗黙知に頼らない影響調査が可能**であることを実証した。